

2022年度CSAJ研究会大会, 色彩文化系3研究会 合同研究発表会 (色彩教材研究会, 暮らしの色彩研究会, 美しい日本の色彩環境を創る研究会)

発表論文アブストラクト

Abstracts of C3-SGs Joint Workshop, CSAJ Study Groups Meeting 2022

会 期：2022年11月26日～27日

発 表：11件

*予稿集PDFは事前に, 登壇発表者・聴講参加者を対象に閲覧可能となる予定です。
<https://color-science.jp/kentai2022/member2022/>

[kentai 2022 3cg-01] 大型組み立てブロック “RenBlock” の色彩展開の検討 Development of Color Variations in “RenBlock”

吉澤陽介 (木更津工業高等専門学校), 吉山 務 (有限会社 YPC), 鎌形信彦
Yosuke Yoshizawa¹, Tsutomu Yoshiyama² and Nobuhiko Kamagata
¹National Institute of Technology, Kisarazu College, ²YPC

本稿は, 有限会社 YPC と木更津工業高等専門学校の産学連携事例を紹介するものである。

有限会社 YPC が開発した “RenBlock” は, 160 × 50 × 80mm の大型ブロックで, DIY を中心に様々な用途で広く利用されている。“RenBlock” は, プラスチックに木粉を練り込むことにより茶系を中心とした「アースカラー」といった自然の色彩表現を有し, 素材の練り込みによって発生した興味深いテクスチャが表現できることが強みである。その強みを活かして, 現在は「標準」の9色, 「幼稚園」の5色, そして「ガーデニング」の5色のカラーラインナップを有している。

本稿では “RenBlock” にさらに付加価値をつけるべく, 色彩展開の検討を試みる。まず, 色彩展開を検討するために, “RenBlock” の現行ラインナップの合計19色についての測色を行い, CIE L*a*b*色空間上で相対的に把握を行った。その上で, 新たな色彩展開案として「自然の色」「アクセントカラー」「カラーユニバーサルデザイン」の3つを提案検討した。

本稿における色彩展開の検討を通して, 木材の有効活用の側面に加え, DIY の用途から更に新しい分野の発展・活用できるように取り組むたい。

[kentai 2022 3cg-02] 高齢者における明度の違いによる色彩弁別能力の評価 ～100Hueテスト色刺激を適用したカラーカード提示による弁別評価の試み～

Evaluation of Color Discrimination in the Elderly using Brightness Difference –Evaluation of Discrimination by Color Card Presentation Method Applied for 100 Hue Test Stimulus–

忍足優菜 (木更津工業高等専門学校), 印牧真慧 (千葉工業大学), 小粥将直 (D&P メディア),
吉澤陽介 (木更津工業高等専門学校)

Yuuna Oshidari¹, Masato Kanemaki², Masanao Ogai³ and Yosuke Yoshizawa¹

¹National Institute of Technology, Kisarazu College, ²Chiba Institute of Technology College, ³D&P media

高齢者や色覚障がい者は, 色覚正常者とは色の見え方が異なっていると言われている。このことは, 複数の色を用いて配色された情報提示物の「見分けづらさ」についても同様であると考えられる。様々な情報提示物において, 「見分けやすさ」と「見分けづらさ」の閾値を把握した上で色彩設計を行うことによって, 多様な色覚特性においても「見分けられる情報提示物」に繋がるものと考えられる。

本研究では 100Hue テストに用いられる中明度かつ中彩度色を適用した色彩弁別評価を試みるものであり, 明度差を変えて見分けづらさを統制した2つの色刺激が印刷されたカラーカードを呈示して, 2刺激の一致率を算出した上で, 黒・灰・白の3つのカラーカードの背景色毎に照明有無における一致率の比較を試みた。

被験者は, 基準色および基準色から明度差を12段階に付した色刺激が示されたカラーカードを10色相分, 合計120枚のカラーカードを観察して, 「同一色か否か」を回答して一致率を算出し, 比較を行った。

その結果, 明度差が10以下の場合に同一色と回答する可能性が高く, また灰色の背景色については最も一致率が低く, 色の弁別がしやすいことが示唆された。

[kentai 2022 3cg-03] デジタル教材を用いたカラーコーディネーション演習による示唆
Envisionment and Digital Migration in Methodology of Color Coordination

榎 芳栄 (株式会社TBSテレビ)
 Yoshie Enoki
 TBS TELEVISION, INC.

コロナ禍の影響でオンラインによるカラーコーディネーションの演習を行うに際し、学修成果に着目しながら、アナログ教材からデジタル教材への移行を試みた。

色彩教材の共有手段は様々であるが、出力先のカラーマネジメントが上手く調整されていなければ、目的意図とは異なる色彩が出力され、正しい色彩コミュニケーションを行うことが難しい。また、オンラインの環境下では、双方向性に富んだプレゼンテーションの方法の工夫が必要となるため、実際に手を動かしながら色彩を考察するアナログ教材の制作と、マウスを動かしてパソコン上でカラーコーディネーションを行うデジタル教材の制作を行い、状況に適した学修支援を行った。

その結果、PCCSとマンセルカラーシステムとの相互関係、色の三属性に対する理解が深まっただけでなく、パソコン上で16,777,216通り(256×256×256色)の色彩表現が可能のため、カラーコーディネーションに使用する色の領域や、デジタル教材の有用性が広がった。オンラインの利便性を活用し、共同制作を行い、学び合える環境の設定を提案することで、デジタルで構成される世界の「色彩とカラーコーディネーション」について示唆と展望を得る契機となったのである。

[kentai 2022 3cg-04] 貴石の色
Colors of Gemstones

田森恭子 (色彩教材研究会)
 Kyoko Tamori
 Special Interest Group on Color Teaching

貴石の色と伝承についての考察

貴石の色に対する説明の専門書が少ないので、自分なりに考えオリジナルなものをまとめて、貴石の色の伝承として多くの人にわかりやすく解説したものを研究してみました。

何百種類という貴石の中から、色が美しい貴石を抜粋して、その貴石の由来、特徴、色の美しさについて分析をしました。今回まとめた石は、スギライト、チャロアイト、ラリマーのような世界三大ヒーリングストーンの他に、伝統的で人気のラピスラズリ、インカローズ、アマゾナイト、パープルサファイア、シトリン、そして珍しいスーパーセブン、モルダバイト、長石類のムーンストーン、ラブラドライト、日本でも伝統的な珊瑚、琥珀、鼈甲、瑪瑙の16種類の貴石の色について考察しました。私が貴石のデザイナーでもあるので、自分の作品などを用いて写真を載せてわかりやすく解説し、貴石の色についての一般の人が興味をもつきっかけになればと思いました。研究考察として、貴石の色は一つの石でも数種類と色がある貴石もあり、光源によって輝き方も違うものがあるので、そのあたりについて研究発表では、当人の経験談を交えて発表したいと考えています。

[kentai 2022 3cg-05] 源氏物語から読み解く平安の色
Colors in the Heian-period culture and the tale of Genji

平山和香子 (アトリエ ワノカ)
 Wakako Hirayama
 Atelier WANOKA

「源氏物語」に書かれている「色に関する表現」について調査を続けている。文学作品である「源氏物語」の文字のみで表される情報からそれぞれの記述がどのような色を示しているのかを可能な限り調査、推測し、物語の書かれた当時の色彩文化の理解につなげることを目的としている。

調査の当初は、全54帖に出てくる色を表す単語すべての抽出、分類、分析から始め、データベースとしてまとめた。

現在は色を表す各単語について、より正確なデータに更新することを目的に、該当箇所を単語のみでとらえるのではなく、前後も含めて場面全体を解釈し、それぞれの場面において色を表す単語がどのような色を表しているのかを文脈から再検証し、そしてその場面における色彩表現の著者のねらいや効果などについて考察をまとめている。

本発表においては、現在までの取り組み、手法を示すと共に、特に、「源氏物語」第二部として扱われる「若菜上」から「幻」までの帖に焦点を当て、いくつかの場面を例に登場する色彩表現について紹介する。

[kentai 2022 3cg-06] 岡本太郎が思考した美意識の特徴—言語文化論の視点から—

Characteristics of the Japanese Concept of Beauty in the Thought of Taro Okamoto: From the Viewpoint of Language and Culture

吉村耕治 (関西外国語大学短期大学部名誉教授)

Kohji Yoshimura

Kansai Gaidai University, Emeritus Professor

時代と格闘し、闘う芸術家とも称せられる前衛芸術画家、岡本太郎(1911-1996年)は、縄文人の美意識が現代日本人の血の深い底流にひそんでいて考える。縄文式土器の特徴である隆線紋の激しさや躍動感・左右不均整と比べて、弥生式土器には整形された幾何学的の均衡や、柔らかな優美さが見られることを指摘する。太郎は人間存在の根源的なモノを追究し続け、常に対立するモノを作品に込めようとしている。真の調和は、調和の対極(アンチハーモニー)にあり、正反対のモノを対決させることで生まれると確信し、対極主義を自分の理念にしている。太郎がバリ在住中に抽象芸術・シュールレアリスムなどを体験し、ピカソの影響を受けたことが、創作活動の基盤になっている。縄文土器の隆線紋を眺めた時、「はげしく、するどく、縦横に奔放に躍動し」ていることや、呪術の世界(四次元の宗教的・呪術的意味)の存在に気づき、その感動を自分の絵画にも応用している。太郎は、侘び・寂び、間、枯淡、渋みなどの美意識を用いず、芸術は「自由の実験室」と捉え、のびのびと明朗(自由奔放)に、一心不乱・無心に、自然・気ままに、原色の華やかな彩りを愛し、自己の個性を貫いた画家と言える。

[kentai 2022 3cg-07] 一宮・常滑・有松の“美しい色風景”撮影活動の報告

Data Collection of "Beautiful COLORSCAPE" in Ichinomiya, Tokoname, and Arimatsu

疋田千枝(Chie 洋裁教室), 多田真奈美(株式会社シック), 祖父江由美子(アトリエトリコロール),

富本いちこ(カラーコレクション), 川澄未来子(名城大学)

Chie Hikita¹, Manami Tada², Yumiko Sobue³, Ichiko Tomimoto⁴ and Mikiko Kawasumi⁵¹Chie Dressmaking Room, ²Design office Chic.ltd, ³Color Planning Atelier Tricolor, ⁴Color Collection⁵Meijo University

日本色彩学会では「日本の美しい色風景」サイトの充実を目指して、地域性の豊かな色風景データの収集を続けている。また、くらしの色彩研究会と美しい日本の色彩環境を創る研究会では、今夏の国際芸術祭「あいち2022」開催に合わせて、9月にオンライントークイベント“国際芸術祭「あいち2022」から学ぶアートとまちの魅力—生きているまちを活かすアート、活かされるアート—”を計画することになった。そして、3つのまちなか会場である、一宮(尾州織物のまち)、常滑(窯業のまち)、有松(絞りと染物のまち)をテーマにした対談の実現に向けて、予め3会場の“美しい色風景”を集めることにした。見学コースを設定した現地撮影会を企画し、3会場それぞれをグループで訪問し、シャッターを切りながら歩いた。それ以外にも「日本の美しい色風景」サイトに集中的なデータ投稿を促した結果、最終的に合計111件(一宮33件、常滑37件、有松41件)のデータを収集することができた。愛知県の歴史や産業、まち並み、伝統文化などに育まれた“美しい色風景”を再確認するとともに、トークイベントの対談も成功に導くことができた。

[kentai 2022 3cg-08] 一宮・常滑・有松における美しさの色彩分析

Color Analysis of Beauty in Ichinomiya, Tokoname, and Arimatsu

長屋匠馬, 安藤南々帆, 山下遼真, 川澄未来子(名城大学)

Shoma Nagaya, Nanaho Ando, Ryoma Yamashita and Mikiko Kawasumi

Meijo University

本研究は、「日本の美しい色風景」サイトに投稿された一宮(33件)・常滑(37件)・有松(41件)のデータを用いて、地域の色彩的な特徴や美しさを把握することを目的とする。まず、投稿者が申告した「主要な色彩」の登場頻度を地域別に集計し、心理的色彩を考察した。次に、画像中の配色パターンを可視化すると同時に、色相・明度・彩度の分布(物理的色彩)を考察し、心理的色彩との対応関係を調べた。その結果、心理的色彩については、3地域とも茶色・白色・黒色・緑色の比率が高く、美しさの基調色となっていることがわかった。色彩分布については、一宮は色相数が多くかつ彩度の高いダイナミックな分布をもつ画像群と、茶色や緑色を基調とする彩度の低い地味な画像群とが混在していること、常滑はほとんどの画像が茶色・緑色を基調とするが一宮より彩度の幅に広がりをもつこと、有松は赤み成分の少ないクールで落ち着いた色合いに時々華やかな色相が混じっていることなどが確認された。このデータに心理的色彩を重ね合わせて考察したところ、物理的に面積を占めるか、または特徴的な分布をもつ色彩が、概ね心理的な印象色として申告されていることも把握された。

[kentai 2022 3cg-09] 一宮・常滑・有松における美しさの感性構造分析
Kansei Structure Analysis of Beauty in Ichinomiya, Tokoname and Arimatsu

山下遼真, 長屋匠馬, 安藤南々帆, 川澄未来子 (名城大学)
 Ryoma Yamashita, Shoma Nagaya, Nanaho Ando and Mikiko Kawasumi
 Meijo University

本研究では, 一宮・常滑・有松の3地域を例にとり, 美しさの種類や感性構造を分析することを目的に, 色風景データ(タイトル・学会員コメント・画像)を用いてSD法(5段階)により印象評価実験を行った。評価用語は20対とし, 被験者として日本色彩学会員28名に協力いただいた。その結果を主成分分析し, それぞれの地域の主成分や評価用語どうしの関係性, 色風景の位置付けを導出した。まず, 主成分について, 一宮と有松では「動き」「明るさ」「コントラスト」が共通して現れたが, 常滑では「単純性」「先進性」「整然性」が現れるなど, 印象構造に違いがあることがわかった。次に, 評価用語どうしの関係性を見ると, 「美しい」と強く関係しているものが一宮では「コントラストのある」, 常滑は「整然とした」, 有松は「穏やかな」「静的な」となるなど, 相違点が把握された。さらに「美しい」の座標に近い色風景画像を確認したところ, 各地域を象徴する美しさのイメージが確認できた。今後は, 対象を別の地域や多様な種類の美しさに広げ, 美しさと色彩情報との関連性も調べる予定である。

[kentai 2022 3cg-10] 映像表現におけるストーリー性のカラー表現～カラーグレーディング実践研究～
Color representation of storytelling in video expression

石丸みどり (愛知淑徳大学)
 Midori Ishimaru
 Aichi Shukutoku University

映画および映像制作において, シナリオをもとにストーリーテリングを映像イメージに落とし込むため, 当初からの色彩設計が重要となる。色彩が心理に与える影響は, 映画の意図を理解することを助け, 演出効果を大きく左右するものであるからだ。

しかし色彩は, カメラの個体差, 撮影時の時間, 天候, ロケーションなどの条件により異なる。同対象を同時に撮影しても撮影状況により得られる画像の明るさや色合いが異なるという問題が生じるのだ。その結果, シーンでの表現したい感情や世界が, 色差による違和感を生じてしまう。

よって, 編集時において, 個体差, 夕日や月光の下での色調を調整することが必要となる。本研究では, 異なるカメラ間や異なる時間帯での色補正を行う方法について実際の映画作品を例に研究の成果を示した。具体的には, Adobe Premiere Pro および After Effects, DaVinci Resolve を使用したカラーグレーディングの実例を示し, 各条件下に生じた問題をどのような方法で補正し, 映画のシナリオコンセプトを当初の色彩計画に基づいた映像イメージで表現することが出来たのか検証していく。

[kentai 2022 3cg-11] ファッションプロデュースのためのパーソナルカラーシステムを活用した配色教材制作
Production of Teaching Material for Fashion Proposal Using the Personal Color System

渡辺真由子, 柴崎幸次 (愛知県立芸術大学)
 Mayuko Watanabe and Koji Shibazaki
 Aichi University of the Arts

2021年度, 大学生を対象とするファッションプロデュース分野の演習型授業にパーソナルカラーシステムを取り入れた。それと同時にパーソナルカラードレープを教材として導入した。しかし, 高額であるため1クラス約25名に対して1セットしか導入できない点, および, 配色演習において, ドレープサイズが大き過ぎて使いにくい点が課題として明らかとなった。そこで, パーソナルカラーシステムを用いた配色演習の改善を目的とする, 安価でコンパクトな教材を制作することにした。教材制作に際して, 価格を抑えるため, 材料には光沢紙を選んだ。色展開は, パーソナルカラードレープを参考に, 著者の目測によりCMYK値を設定し, オンデマンド印刷した。教材1セットを「髪の色, 目の色, 肌の色, 口紅の色のカード」「シーズンカラーバンド」「カラーカード」の3つのカテゴリのカードで構成した。制作した教材を翌年である2022年度の授業に導入したところ, 特に配色を試し, それをファッション・コーディネートに活用するという点において, 有効であった。また, 授業終了後のアンケートから, 学生がプライベートで利用するという教材活用の展開が予想される結果となった。